第1課　ペテロの人間性

【暗唱聖句】

「しかし、強い風に気がついて怖くなり、沈みかけたので、「主よ、助けてください」と叫んだ。イエスはすぐに手を伸ばして捕まえ、「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」と言われた」マタイ14:30、31

水の上を歩けるほどの信仰を発揮したペテロでしたが、強い風に気が付いて恐怖を感じると、とたんに沈みかけます。信仰の力を阻害するものは恐怖心、不安感であることがわかります。また恐怖心、不安感を抱かせる強い風はいつ吹き荒れるかわかりませんから、強い信仰を持ち続けることがいかに難しいことかと思います。しかし、そんなペテロの前にはイエス様がおられ、沈みゆくペテロに手を伸ばしてすぐに救いだして下さいました。

わたしたちも、時に信仰の力を発揮することがあっても、すぐに沈んでしまう弱さを露呈してしまいがちです。しかし、その度に主が手を伸ばし救い出して下さる。このようなことの繰り返しの中で成長させられるのです。

【今週のテーマ】

ペテロの体験からわたしたちは様々なことを学ぶことができますが、今週はペテロの人間性について学びます。

【日曜日　私から離れてください】

ルカ5章1～9にガリラヤ湖で漁をしていたときのペテロが登場します。イエス様はペテロの舟に乗り込み、少し沖に出て、そこから群衆たちに向かってお話しされました。話し終わったあと、ペテロに「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をしなさい」と言われました。ところがペテロは夜通し漁をしていたのですが1匹も魚がとれなかったのです。だから再び網を降ろしたとしても結果は見えていました。しかし、ペテロはこういうのです。

「しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましょう」ルカ5：5

このようなイエス様の言葉に従う態度はペテロの特徴をよく表しており、信仰の基礎となっています。しかしペテロがイエス様の言葉にすぐに従うことができたのはなぜでしょうか。ガイドの著者は可能性としてペテロはイエス様のことを多少知っていたということと、もう一つ、舟の上から語られたイエス様のメッセージによって心が動かされていたのではないかと言うことです。同様にわたしたちもいつもイエス様の教えに耳を傾けているなら、イエス様の言葉にもっと素直に従うことができることでしょう。

イエス様のお言葉通り、ペテロが網を降ろしてみると、大量の魚が網にかかり舟が沈みそうなほどでした。神様の言葉に従ったとき、自力ではただの1匹も魚を取ることが出来なかったのに、魚を見事に獲ることができたのです。しかも、少しばかりではなく、あるいは平均的な量でもなく、大量でした。それは神様の力を人間が認め、知るためです。これと同様のことがわたしたちの人生にも起きるのです。

ペテロがこの奇跡の後、イエス様に対してとった行動が興味深いのですが、「ペトロは、イエスの足もとにひれ伏して、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」ルカ5:8と言うのです。神様の力を目の当たりにしたとき、人はその強さよりも、自分の罪深さを痛感させられるものなのかもしれません。このような砕かれた思いでひれ伏すペテロにイエス様は「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる。」（ルカ5:10）と言われ、主の僕として召されます。主が用いられる器とは、自分の罪深さ、弱さ、無力さを認めたものです。そのような者を主は豊かに祝福され、用いられるのです。主のこの招きに対してペテロはすぐに網を捨て従いました。

【月曜日　キリストを告白する】

「ファリサイ派とサドカイ派の人々が来て、イエスを試そうとして、天からのしるしを見せてほしいと願った」マタイ16:1

ファリサイ派とサドカイ派の人々は、イエス様に対して天からのしるしを見せてほしいと言います。これはイエス様が本当に天から遣わされたメシアなのかを試そうとする言葉でした。聖書は神様を試してはならないと書かれてあります。わたしたちに求められているものは、ただ信じることです。神様に愛されていることをただ信じる、幼子のような信仰が大切です。

このようなやりとりをされた後、イエス様は弟子たちに「ファリサイ派とサドカイ派の人々のパン種によく注意しなさい」（マタイ16:6）と言われます。弟子たちはパンを持ってくるのを忘れたので、イエス様がこのようなことを言われたのだろうかと勘違いしたようですが、そうではなく、ファリサイ派とサドカイ派のような人々は不信の思いを植え付けていくことを警告されたのです。イエス様を疑う心は、最初は小さなものでもやがてパン種がパンを膨らませるようにどんどん大きくなっていきます。わたしたちも注意しなければなりません。

その後、フィリポ・カイサリア地方に行ったときイエス様は人々が自分のことを色々と噂しているのを聞き、弟子たちに尋ねられます。

イエスが言われた。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」マタイ16:15

この問いかけに対して即座に答えたのがペテロでした。ペテロは「あなたはメシア、生ける神の子です」と告白しました。ペテロにはこのような純粋な信仰がありました。驚くべきことに、父なる神様がペテロを導かれたのだとイエス様は言われました。わたしたちも「イエス様はわたしたちの主、救い主です」と心から告白するとき、父なる神様の大いなる御手の中にいることを覚えましょう。

ところがペテロの告白は、正しい知識と理解に基づいたものではなかったので、イエス様がやがてご自分が捕らえられ、死ななければならないことを伝えると、「主よ、とんでもないことです。そんなことがあってはなりません」と、即座にイエス様の言葉を否定したのでした。すると、イエス様は振り向いてペトロに「サタン、引き下がれ。あなたはわたしの邪魔をする者。神のことを思わず、人間のことを思っている」と激しい調子で叱責されたのでした。ペテロは何とイエス様からサタン呼ばわりされたのです。これは本当に厳しい叱責でした。しかし、その裏にはサタンがどのようにわたしたちの心の中に侵入してくるのか、わたしたちに注意を喚起するためにイエス様はこのような厳しい調子で言われたのです。信仰の世界には、決して曖昧にしてはならないことがあるのです。

そしてイエス様は「、わたしについて来たい者は自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」（マタイ16：24）と、イエス様を信じ従うとはどういうことなのか、苦しみを伴うこともあるのだと教えられました。

【火曜日　水の上を歩く】

ペテロには他の弟子にはないような様々なエピソードが残されていますが、その中でも水の上を歩くという経験は印象深いものです。この物語はイエス様が弟子たちを強いて舟に乗らせられるところから始まります。強いて舟に乗らせられたということは、そこにはイエス様の何か目的やお考えがあったということです。その後、彼らがすぐに体験するのは逆風により舟が進まなくなってしまうということです。つまり、このような困難に直面させたかったということになります。すると夜明けごろ、イエス様が水の上を歩いて舟に近づいてこられたのです。何度もイエス様の奇跡を目にしてきた弟子たちでしたが、水の上を歩くという、ありえないような光景を目の当たりして、いったい彼らは何を思ったでしょうか。このときすぐに反応を示すのが、ペテロでありました。ペテロはイエス様にこう言ったのです。

「主よ、あなたでしたら、わたしに命令して、水の上を歩いてそちらに行かせてください。」マタイ14:28

まるで小さな子どもがお父さんのすることを見てその真似しようとするように、ペテロは自分も水の上を歩いてみたいと思ったのです。これはペテロの信仰でした。イエス様なら自分も水の上を歩かせてくださると信じたのです。そして、実際に彼は水の上を歩くという奇跡を体験します。それを他の弟子たちは固唾を飲んで見守っています。イエス様の力を体験しているペテロと、ただそれを見ているだけの弟子たちに分かれます。わたしたちはどちらでしょうか。

ところが、途中風が吹いて、イエス様から目を離した瞬間、ペテロは水の中に沈み始めます。信仰が一定していないことがわかります。わたしたちも同様ではないでしょうか。信仰が強くなることあれば、弱くなることもあるのです。機械のように一定の力を発揮できない、それが人間です。しかし、イエス様はすぐに沈みゆくペテロに救いの手を差し伸べ救い出してくださいました。このようなイエス様の救いの力を何度も繰り返し体験しながら、わたしたちは成長していけばよいのです。ただ、ペテロのように一歩水の中に足を踏み入れる信仰の行いがなければ、このような力強い主の御手によって引き上げられる経験もないのです。

【水曜日　主を否定する】

弟子たちの中でも行動力があり、勇気もあったはずのペテロが主を知らないと3度も拒むことになります。エレン・G・ホワイトは、ゲッセマネで主と共に祈っていれば、このように主を知らないと拒むことはなかったであろうと言っています。主がペテロ、ヤコブ、ヨハネにわたしと一緒に祈っていなさいと言われたのは、実は彼らのためでもあったのです。

しかしこの失敗は、やがて初代教会を建てあげていく重要な指導者としてペテロを成長させるものとなっていきます。なぜなら、主の暖かな愛と赦しの中で、己の無力さを知り、謙遜に主に頼ることを学ぶようになっていったからです。

ところで、イエス様はペテロが自分を知らないと拒むことをはじめからご存じでした。イエス様がペテロに語った言葉に注目してみましょう。

「シモン、シモン、サタンはあなたがたを、小麦のようにふるいにかけることを神に願って聞き入れられた。しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」ルカ22:31～32

ペテロを小麦のようにふるいにかけたのはサタンです。サタンはヨブを試したときに神様に願ったように、ここでもやはり神様に願って許可を得ています。つまり、神様の赦しがなければサタンの攻撃、試みはないということがわかります。では、なぜ神様はサタンの試みを許されるのでしょうか。それはおそらく私たちを神様は信じておられ、わたしたちにとってそれが益となることを御存じだからです。しかし、サタンの攻撃は簡単ではありません。だから、主はわたしたちの信仰が無くならないように祈っていてくださいます。これは普段わたしたちが気が付いていないことかもしれません。主はわたしたちのために祈っていてくださるのです。親が子供のことを毎日忘れることなく祈っているように。

そして、ペテロが失敗の後、立ち直るきっかけとなったであろう言葉が次に語られます。

「だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」ルカ22:32

主を拒むという失敗を犯したペテロをイエス様は信じておられ、立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさいと期待されました。この言葉の意味することを、その時はわからなかったでしょうが、後からおそらく思い出して、自分を信じてくださる主を思い、ペテロは立ち直ることができたのだろうと思われます。

【木曜日　教会の指導者としてのペテロ】

ペテロは弟子の中でもリーダー格であったことがわかります。たとえば、マタイが弟子の名前を列挙するとき「まずペテロ…」（マタイ10:2）と記しています。ユダの代わりの弟子を任命するために先頭にたってリードしたのもペテロでした。さらに聖霊が降下したときに、驚く群衆たちのために説明に立ち上がったのもペテロでした。ペテロは弟子の中でも3本柱の一人であり（他の二人はヨハネとヤコブ）、イエス様からは「わたしの羊を飼いなさい」と言われました。

それでもペテロにはまだまだ成長すべきことがありました。たとえば律法に熱心だったユダヤ人クリスチャンたちの前では、彼らの目を気にして異邦人と食事することを避けました。このような態度は偽善であるとパウロは厳しく叱責したほどでした。ペテロの弱さはプライド、自尊心にありました。イエス様を知らないと否定したのも、恐怖ではなく、自尊心からでした。弟子と呼ばれる人たちでも、わたしたちと同じ弱い罪人です。しかし、その弱さの中で神様の御用を成し遂げていきました。わたしたちも同様です。恥ずかしく情けない弱さがありながらも、なおも主のために生きることが許されていることは不思議です。神の子としての成長は限界がありません。主の導きと訓練に感謝し、これからも歩んでまいりましょう。